

1990年の結成以来、一人のメンバー交代もなく熟成と進化を遂げてきた「澤クワルテット」
 生誕250年を迎えたベートーヴェンの中期・後期作品に挑む

澤クワルテット

デビュー30周年記念演奏会



これぞ究極!《オール・ベートーヴェン・プログラム》

弦楽四重奏曲 第8番 ホ短調 Op.59-2

「ラズモフスキー 第2番」

弦楽四重奏曲 第10番 変ホ長調 Op.74

「ハープ」

弦楽四重奏曲 第12番 変ホ長調 Op.127

第1ヴァイオリン

澤 和樹

第2ヴァイオリン

大関博明

ヴィオラ

市坪俊彦

チェロ

林 俊昭



©武藤章

2021年7月10日(土) 14:00開演 13:30開場 [全自由席] 一般4,500円 学生(対象:小学生以上25才以下の学生) 2,700円
 ハーフ60(後半のみ観覧の当日券)

当面の間、感染対策のため座席定員を減らしての開催となります。(チャリティシートの設定はございません)
 中止・振替等が発生する場合がございます。最新の情報は宗次ホールホームページまたはお電話でお問い合わせください。

チケットのお求めは
5月9日(日)
 10時より販売開始

- 宗次ホールチケットセンター ① TEL:052 (265) 1718
- ② インターネット予約 →
- チケットぴあ TEL:0570 (02) 9999 [Pコード197-200]
- 名鉄ホールチケットセンター TEL:052 (561) 7755



くらしの中にクラシック
宗次ホール
 Munetsugu Hall
 名古屋市中区栄4-5-14 〒460-0008
 www.munetsuguhall.com
 営業時間:10:00~16:00 不定休

※やむをえず、曲目などに変更がある場合がございます。あらかじめご了承ください。 ※未就学児のご入場は、ご遠慮ください。



『ロザムンデ』&『死と乙女』CD新譜月評「レコード芸術 2018年2月号」より抜粋

「…アンサンブルの根幹からしなやかな響きの美しさが失われず、骨ばった音楽にならないところがこのクワルテットのすばらしさだ。…若く血の気の多い団体のように荒ぶることなく、常に余裕を残しているのもさすが。…呼吸が自然で、聴き手に息苦しい苦痛を無理強いすることがない。」 (大木正純 評)

「…さすがに25年以上にわたって同じメンバーで続けてきたアンサンブルは極めて強固かつ緻密で、その響きの密度の濃さも尋常ではない。…その充実感は、若い弦楽四重奏団の演奏の遠く及ぶところではない。」 (中村孝義 評)

澤クワルテット Sawa Quartet

1990年11月に結成され、91年春のコンサート・ツアーでセンセーショナルなデビューを飾る。以来、現在に至るまでメンバーの交代はなく、不動のメンバーで春秋のツアーを中心に充実した活動を展開している。92年、93年、95年、97年に、20世紀最高の弦楽四重奏団のひとつ、アマデウス弦楽四重奏団メンバーとの共演による“アンサンブル・アマデウス”演奏会が好評を博する他、イェルク・デームス(ピアノ)、アルフレッド・プリンツ(クラリネット)、ペーター・レーゼ(ピアノ)ら世界的巨匠とも共演を果たす。海外においても、94年、97年、99年に国際交流基金の助成を受けてドイツ・オーストリア・イギリスへの演奏旅行を行い、大成功を収める。結成10周年の2000/2001年のシーズンには、ベートーヴェンの弦楽四重奏全曲チクルス(全6回)に取組み、注目を集めた。更に、96年より長岡リリックホールのアソシエート・アンサンブル、97年より豊田市コンサートホール室内楽シリーズのホスト役を務め、様々な企画で内外の一流アーティストと共演を重ねている。また、各地の音楽講習会を通じ、青少年やアマチュア音楽家、若手演奏家の育成にも積極的に取り組んでいる。「イサン・ユン最後の室内楽」、「わが生涯(スメタナ)/アメリカ(ドヴォルザーク)」などのCD録音でも高い評価を得ており、2018年には「シューベルト:弦楽四重奏曲第13番『ロザムンデ』&第14番『死と乙女』」がリリースされ、レコード芸術誌で特選盤に選出された。



澤 和樹 Kazuki Sawa (第1ヴァイオリン)

1979年、東京藝術大学大学院修了。安宅賞受賞。80年より文化庁在外研修員としてロンドンにて研鑽を積む。ロン＝ティボー、ヴィエニャフスキ、ミュンヘンなどの国際コンクールに入賞。イザイ・メダル、ボルドー音楽祭金メダル受賞などヴァイオリニストとして国際的に活躍。84年、東京藝大に迎えられるとともに本格的な演奏活動を開始。89年、文部省在外研究員としてロンドンの王立音楽院に派遣され、さらに研鑽を重ねる。この時期、アマデウス弦楽四重奏団メンバーとの出会いにより澤クワルテットの結成を決意する。96より指揮活動を開始し、98年より千里フィルハーモニア・大阪常任指揮者。また、九州交響楽団、東京フィル、日本フィル、札幌交響楽団、紀尾井ホール室内管弦楽団などでも客演し、好評を博す。2004年、和歌山県文化賞受賞。現在、東京藝術大学長、英国王立音楽院名誉教授、響ホール室内合奏団ミュージックアドバイザー。



大関博明 Hiroaki Oseki (第2ヴァイオリン)

1972年国立音楽大学を卒業。在学中にオランダ、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団への入団試験に合格し、卒業後直ちに入団。その後75年ドイツ、マンハイム州立歌劇場管弦楽団、76年バンベルク交響楽団に入団。79年群馬交響楽団にコンサートマスターとして招かれ帰国。80年に始まった草津国際音楽フェスティバルに第1回から参加し、多くの世界的アーティストと共演する。87年群馬交響楽団を退団し、同年より母校国立音楽大学で教鞭を執り、2015年まで同大学教授。2015年まで6年間、東京藝術大学講師。豊田市ジュニアオーケストラ創立以来2017年まで指導者、紀尾井ホール室内管弦楽団団友。



市坪俊彦 Toshihiko Ichitsubo (ヴィオラ)

東京藝術大学附属高校、同大学を経て、1992年同大学大学院を修了。大学内にて安宅賞を受賞、藝大フィルとバルトークのヴィオラ協奏曲を共演し、注目される。在学中からの澤クワルテットの活動に加え、現在は紀尾井ホール室内管弦楽団、東京クライスアンサンブルのメンバーを務めており、ライナー・ホーネック(ヴァイオリン)、アントワン・タメスティ(ヴィオラ)をはじめ、世界的アーティストとの共演を重ねるなど、活発な演奏活動をおこなっている。また今井信子氏主宰の「ヴィオラ塾」や、クーブラなどイタリア各地の講習会・音楽祭に講師として招かれる等、後進の育成にも積極的に取り組んでいる。東京藝術大学准教授、沖縄県立芸術大学非常勤講師。



林 俊昭 Toshiaki Hayashi (チェロ)

桐朋学園高校を卒業後、ボストン大学を経て、渡欧。ナヴァラ、フルニエ等の巨匠に師事。サンタ・チェチーリア音楽院を最優秀で卒業。その間、夫人のピアニスト林由香子とのデュオで数多くの国際コンクールに優勝・入賞し、デュオ・ハヤシとしてイタリアを中心に演奏活動を展開。また、ローマ合奏団に2年間在籍し、国立サンタ・チェチーリア管弦楽団で特別契約団員を7年間務める。1987年、大阪フィル首席チェリストに就任し、帰国。第2～4回「1000人のチェロコンサート」のコンサートマスター。2003年からイタリア各地の国際音楽祭に定期的に招かれ、2011年に長年の活動を賞しイタリア・フェルモ市より「ジョルダニエロ賞」が授与。2013年にイタリアで「デュオ・ハヤシ国際コンクール」を創設。東京藝術大学チェロ科と室内楽科講師を18年務め、現在は徳島文理大学教授、紀尾井ホール室内管弦楽団団友。

【お客様へのお願い】

発熱など、体調に不安のある方はご来場をお控えください。

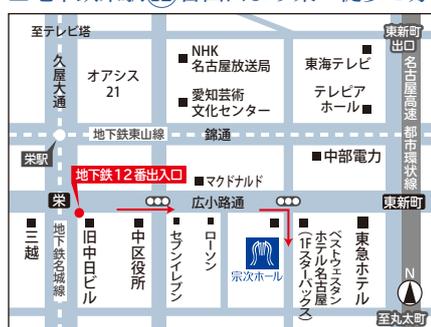
来館時、お手洗い使用後の手洗いや消毒にご協力ください。

館内ではマスクを着用してください。

開場時、お手洗い利用時の整列では間を空けてお並びください。

スタッフの勤務方法と共に、この他にも各感染予防対策を実施いたします。
詳しくは、ホームページ [www://munetsuguhall.com](http://www.munetsuguhall.com) をご覧ください。

■地下鉄栄駅⑫番出口より東へ徒歩4分



くらしの中にクラシック



名古屋市中区栄4-5-14 〒460-0008
TEL:052(265)1715 FAX:052(265)1716
E-mail info@munetsuguhall.com
URL www.munetsuguhall.com
宗次ホールチケットセンター
営業時間:10:00～16:00 不定休